



sube / shirube [reboot]

2021-2022

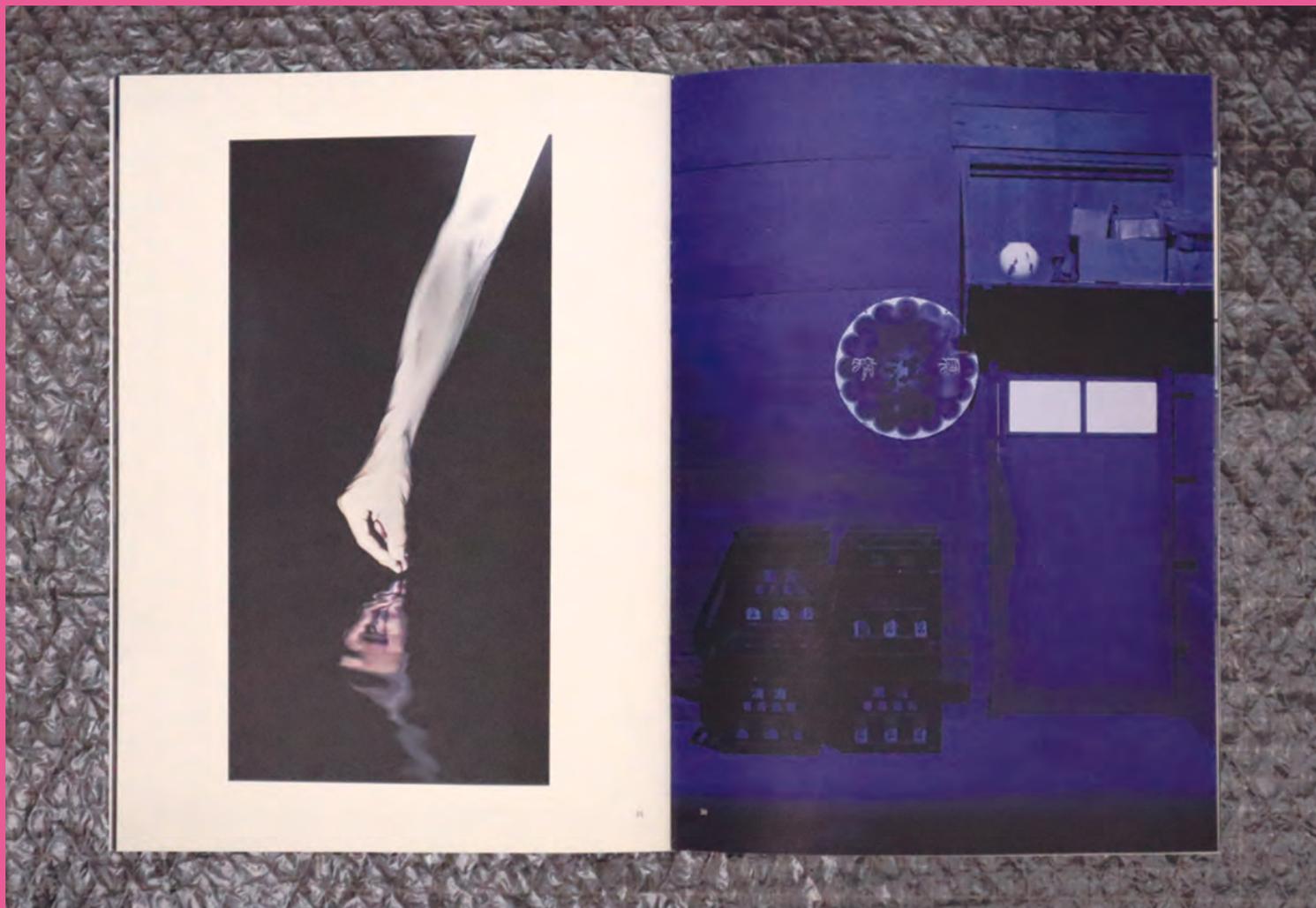
for Moriya Yuki

only the voice remained

GALLERY P A R C

GRAND MARÉE

すべ
と
しるべ(再)



Gallery PARC[グランマールブル ギャラリー・パルク]では、『すべ と するべ(再)』として、守屋友樹(2022年6月11日[土]から7月23日[日])・田中秀介(2022年7月9日[土]から7月24日[日])による2つの展覧会を連続開催いたします。

「展覧会」とは、アーティストが表現(すべ)を社会に向けてひらく標(するべ)であり、また鑑賞者は作品と空間・時間をともにするなかで、それぞれにとっての方法(すべ)を発見する「体験」を得る機会・場であるといえます。

『すべ と するべ』は、ギャラリー・パルクが2020年より取り組むプロジェクトで、変容していく社会状況の中で「展覧会」という体験の機会をよりタフに起動させていくため、その方法の開発・獲得を目的に、とりわけ展覧会における「記録」に焦点をあてて取り組むものです。展覧会を異なる視点・異なるメディア(映像・写真・言葉)による自立した記録によって「つくり・のこす」ことで、それらが読み出される時に新たな体験を「おこす・ひらく」ための(すべ)を編み出していくものです。

2021年、京都府南丹市八木町に残る築400年を超える旧酒造を会場に、田中秀介(美術家)と守屋友樹(写真家)のそれぞれは6日間の展示公開を行なうとともに、その記録として麥生田兵吾(写真家・映像作家)と今村達紀(振付家・ダンサー)による映像、野口卓海(美術批評・詩人)の編集と三重野龍(グラフィックデザイナー)のデザインによる記録物を制作。これらは、ひとつの展覧会を起点にそれぞれが自立した眼差しから作品や表現を発見・解釈し、それぞれの媒体の特性をもって「つくる・のこす」ことに取り組むことで、記録を展覧会の補完物としての関係からズラし、それ自体が観賞体験を「おこす」ものとなるよう企図したものです。

本展『蛇が歩く音:only the voice remained』は、2021年に京都府南丹市八木町に残る旧酒造を会場に開催した、守屋友樹(もりや・ゆうき)による展覧会「蛇が歩く音:walk with serpent」を、パルクの空間に(再)構成・(再)起動させるものです。

およそ10年前の偶然的な体験を出発点に、現在までに幾度もリサーチを重ねて準備された本展は、『蛇』をモチーフとしながらも、いわゆる写真そのものを展示するのではなく、にまつわる様々な要素を横断的に展開するインスタレーションとなります。ここで守屋は「目の前に見えるものしか写せない」という写真の「解体」と並行して、物語化・象徴化された『蛇』を物質化・抽象化させることで、鑑賞者の内にイメージの「生成」を促し、「目には見えないけれど確かに見えている」という体験を発生させています。

また、旧酒造という特徴的な空間を手がかりに制作・展示された作品群を、異なる空間・時間に持ち込んで(再)展開させる本展では、かつて(2021年)の展覧会に取材して制作した記録映像・記録集をあわせてご覧いただけます。これにより、記録が、過去と現在・記録と記憶の曖昧な重なりにより自立することで、鑑賞者の発見や想像を促し得ること、そこに作品や表現を「ひらきつづける」ことの可能性を体感いただけるのではないのでしょうか。



展覧会名 すべとしるべ (再)
sube / shirube [reboot] 2021-2022

#01
蛇が歩く音
only the voice remained

出展作家 守屋 友樹
Moriya Yuki

会 期 2022年 6月11日[土] — 7月3日[日] 13:00~19:00 水・木休廊

入 場 無料

主 催 ギャラリー・パルク

〒602-8242 京都府京都市上京区皂莢町287 堀川新文化ビルディング 2階 MAP

TEL 075-334-5085 (T) 075-334-5360 (F)

MAIL info@galleryparc.com HP www.galleryparc.com

アクセス ○地下鉄烏丸線「丸太町」・「今出川」駅より徒歩約20分
○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩約18分
○京都市バス9番・50番 (JR京都駅から約22分)・12番 (阪急烏丸駅から約15分)・67番 (阪急大宮駅から約12分) 系統「堀川中立売」バス停下車徒歩1分
○駐輪場・駐車場 (3台) 有 ※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

[会場風景]

すべと しるべ 2021 #02

蛇が歩く音 walk with serpent

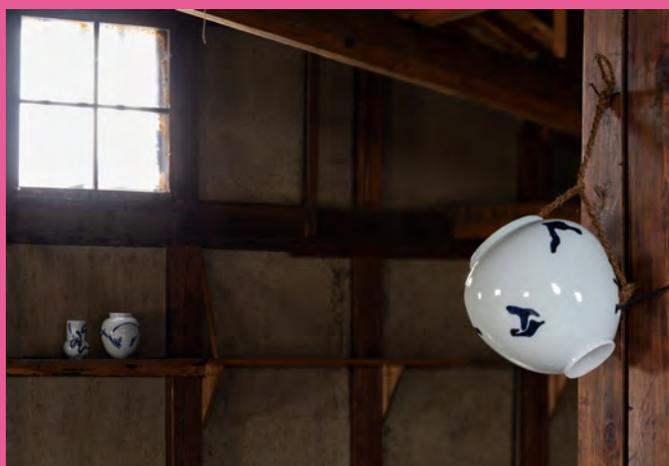
守屋 友樹 Moriya Yuki

2021年 10月30日[土]・31日[日]・11月1日[月]・6日[土]・7日[日]・8日[月]

オーヤマ・アートサイト



←こちらより展覧会記録をご覧ください。



2021年、田中秀介(美術家)、守屋友樹(写真家)の2名のアーティストは、京都府南丹市八木町に残る築400年を超える旧酒造を会場にそれぞれ6日間だけの展示を行なった。

その記録として、麥生田兵吾(写真家・映像作家)と今村達紀(振付家・ダンサー)による映像と、野口卓海(美術批評・詩人)の編集・制作による記録集(デザイン:三重野龍、執筆:小林 公・はがみちこ・神馬啓佑、写真:麥生田兵吾)が残された。

映像撮影・編集・制作:

麥生田 兵吾 Mugyuda Hyogo

<http://hyogom.com>

https://www.galleryparc.com/pages/project/pj_2021/2021_02_subeshirube.html

「Artificial S」という一つの主題に専念し制作活動している。「S」は複数の意味と、そして複数性そのものを包含させている主題は全5章で構成され、全章を通して「生と死」が互いに溶け合うさまを表現する。また 2010年より写真活動「pile of photographys」をweb上で発表し続けている。主な展覧会として「Artificial S 5 -心臓よりゆく矢は月のほうへ-」(Gallery PARC・2018)、大阪府20世紀美術コレクション展「ココロヲウツス」(江之子島文化芸術想像センター・2020)、『すべとしるべ 2020』でも映像制作を担当。

パフォーマー(映像出演):

今村 達紀 Imamura Tatsunori

<https://imamuratatsunori.net>

ダンサー、振付家、パフォーマー、役者として、akakilike、ANTIBODIES Collective、BRDG、contact Gonzo、KIKIKIKIKIKI、Monochrome Circus、Sung Yong kim、したため、多田淳之介、桑折現、白井剛、小金沢健人、村田宗一郎、飯名尚人、塚原悠也などの作品に参加。呼吸を止めて踊る「無呼吸」、関節を鳴らす「関節話法」、曾祖父の記憶と踊る「もけもけしたものがはみ出てくる」などの作品を制作。毎日どこかで呼吸を止めて踊る「本日の無呼吸」は今年で9年目(https://www.youtube.com/channel/UCTM_8yLxIN-9ZT8K7p6pV7w/videos)。『すべとしるべ 2020』では写真・映像内においてパフォーマーとして参加。



←こちらより記録映像をご覧ください。



記録物編集・制作:

野口 卓海 Noguchi Takumi

美術批評家、詩人。おもな展覧会企画として、「有馬温泉路地裏アートプロジェクト」(2013)、「まよわないために -not to stray-」(the tree konohana・2014)、「松見拓也 写真展 | KASET」(hinemos・2015)、「METRO WHITE」(阪急メンズ大阪・2016)、「人と絵のあいだ」(HAPS・2016)、「みたりのやりとり」(マガザンキョウト・2017)など。現代美術へのアプローチと平行し、デザイン・ストリートカルチャー・音楽といった同時代的な他領域へ積極的に携る活動として、hinemosにも参加。2015年からは写真家・松見拓也とデザイナー・三重野龍とのサイファーのような月刊紙片「bonna nezze kaartz」の発行を開始、同名義で展覧会や作品制作なども行なう。



記録物デザイン:

三重野 龍 Mieno Ryu